

## 平成30年度 独創的研究助成費 実績報告書

平成31年3月29日

報告者	学科名	看護学科	職名	教授	氏名	住吉 和子
研究課題	指先マッサージと室谷式爪切りが末梢血流に及ぼす影響					
研究組織	氏名	所属・職		専門分野	役割分担	
	代表	住吉 和子	看護学科・教授	成人看護学	統括・データ収集	
	分担者	荻野 哲也 高林 範子 浅井 美穂	看護学科・教授 看護学科・助教 看護学科・助教	病理学 基礎看護学 成人看護学	アドバイス データ測定 データ測定	
研究実績の概要	<p>末梢血流を改善できる看護ケアが従来の看護ケアと比較して、健康指標（血圧、脈拍、皮膚温など）を改善することを検証し、健康回復に有効な看護ケアを開発する上での資料を得ることを目的とする。そのためには、演習時間を確保し、末梢血流を良くする看護ケアを学生に体験してもらい、技術の習得も含める。</p> <p>1. 演習を通した学部学生の体験と技術の習得 学部学生が室谷先生のマッサージや爪切りについて、日本フットケア協会の室谷良子先生に講義依頼し、看護ケアの技術を習得することで、看護ケアへの関心が高まり、臨地実習時に積極的に末梢血流を良くする看護ケアを提供することができる。3時かの演習で学生は、看護ケアを少し工夫するだけで、末梢血流が改善すること、末梢血流が改善することで下肢の切断が防げた事例や酸素飽和度が改善した事例から、意識的に末梢血流を改善することの必要性を感じていた。</p> <p>2. 指先マッサージの効果 11名の学生を対象に、綿棒を用いた指先マッサージを行い、その後自律神経と末梢血流を測定したところ、自律神経の変化には有意差はみられなかったが、末梢血流はマッサージ直後から有意に速くなっていた。今回は、指先マッサージ前後での測定を行ったが、指先マッサージを行わない場合にも測定したグループと同様に、15分ごとに1時間の経過を測定を行わなかったため、今年度は学術集会での報告のみで論文作成には至らなかった。来年度は、指先マッサージを行わない場合、指先マッサージを行った場合、指先マッサージにオイルを使用した場合と分けて、指先の末梢血流の変化を観測し、効果的な指先マッサージの在り方について検証を行う予定である。</p>					

※ 次ページに続く

<p>研究実績 の概要</p>	<p>3. 健康知覚尺度の作成 160名の学生を対象に冷え性に関するアンケート調査を行い、末梢血流についての「健康知覚尺度」を作成した。この尺度は信頼性と妥当性が検証されたため、今後看護ケアの後に末梢血流が改善したか否かについて、使用することが可能であり、ケアと血流の関係を満たすために使用できる。しかし、「冷え性」の人の場合には、血流の改善と「温かい」と感じる感覚が一致しているかどうかということについて、今後検討が必要である。</p> <p>4. 今後の課題 末梢血流が改善することで、健康状態にどのような影響があるかということはまだよく知られていない。そこで臨地実習で担当する複数の疾患を併せ持つ対象者に末梢血流を改善するケアを提供し、その効果として健康状態の変化を詳細に観察することが必要である。</p>
<p>成果資料目録</p>	<p>特になし</p>